

分野	専門分野	授業科目	看護学概論
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	坂井由美子（30 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > 看護学の基盤を学び、看護を考える第一歩とする。 < 科目目標 > 看護の変遷を知り、その対象について理解する。 専門職として看護の役割と機能を理解する < 授業内容 > 1 看護とは 2 看護の対象の理解 3 国民の健康状態と生活 4 看護の提供者 5 看護における倫理 6 看護の提供の仕組み 7 広がる看護の活動領域			
< 授業の進め方 > 講義・演習			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 1 看護学概論 医学書院			
< 参考文献 > よくわかる看護者の倫理綱領 照林社 フローレンス・ナイチンゲール看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 やさしく学ぶ看護理論 日総研出版 看護六法 新日本法規出版			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	医療コミュニケーション
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	1 年次前期
講師名 （時間・所属）	伊東 正広（15 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > 人間関係の基盤となるコミュニケーションについて学ぶ。 < 科目目標 > コミュニケーションの意義と目的を理解し、話を聞く姿勢、自己表現できる技術を習得する。 チーム医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 < 授業内容 > 1 医療コミュニケーションの意義と目的 2 コミュニケーションの構成要素と成立過程 3 ホスピタリティマナー 4 関係構築のためのコミュニケーション 5 コミュニケーション障害がある人への対応 6 プロセスレコード			
< 授業の進め方 > 講義 演習			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	看護過程・看護記録
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次後期
講師名 （時間・所属）	内川 千賀（45 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > 看護の問題解決プロセスを学ぶ。また、その実践を記録することができる。 < 科目目標 > 看護過程の構成要素とその関係性を理解し、看護の展開ができる。また、その過程を正しく記録できる。 < 授業内容 > 1 看護過程とは 2 看護過程の構成要素 3 看護過程の各段階 4 看護過程の展開 5 看護記録 6 看護理論			
< 授業の進め方 > 講義 演習～事例展開			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 医学書院 NANDA－I 看護診断 定義と分類 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研			
< 参考文献 > 看護の基本となるもの 日本看護協会 人間関係の看護論 医学書院 やさしく学ぶ看護理論 日総研 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカワ			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	臨床看護総論
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次後期
講師名 （時間・所属）	小池 久美（30 時間・佐賀県看護協会他非常勤講師・看護師）		
< 科目設定理由 > 健康上の問題を持つ対象に対し行われる、経過別及び症状別の看護について学ぶ。 < 科目目標 > 対象の健康状態を把握し、健康障害・経過に応じた看護の視点を習得する。また、症状を示す患者に対する看護の視点を養う。 < 授業内容 > 1 健康上の問題をもつ対象者と家族への看護 2 健康状態の経過に基づく看護 1) 急性期 2) 慢性期（学習支援の技術を含む） 3) 回復期 4) 人生の最終段階 3 主要症状に対する看護			
< 授業の進め方 > 講義 演習			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	フィジカルアセスメント
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	伊東 正広（30 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > 対象の身体状況を評価する方法を学ぶ。 < 科目目標 > フィジカルアセスメントの目的を理解する。 対象の身体状態を正しく観察する方法を理解し、実施できる。 健康上の問題を評価できる。 < 授業内容 > 1 フィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントとは 2) 系統的フィジカルアセスメント 3) バイタルサイン測定 4) 身体計測 2 症状・生体機能管理技術 1) 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2) 検体検査 3) 生体情報のモニタリング			
< 授業の進め方 > 講義 演習～技術試験あり ※バイタルサイン測定の技術試験合格が生活援助基礎実習の受講要件となる。			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I II 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア			
< 参考文献 > 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院			
< 評価方法 > 学科試験 技術試験			

分野	専門分野	授業科目	清潔・排泄・栄養の援助
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次前期～後期、2 年次前期
講師名 （時間・所属）	1 年次 田中希代子（30 時間・学院教員 看護師） 2 年次 学院教員 （15 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > 栄養・清潔・排泄に関する基本的な援助を学ぶ。 < 科目目標 > 栄養・排泄・清潔に関する基礎知識を身につけ、援助ができる。 < 授業内容 > ・ 1 年次（30 時間） 1 食事援助技術 1) 食事援助の基礎知識 2) 食事摂取の介助 2 排泄援助技術 1) 自然排尿および自然排便の介助 2) 自然排尿・排便を促す援助 3 清潔・衣生活援助技術 1)清潔の援助 2)病床での衣生活の援助 ・ 2 年次（15 時間） 1 食事援助技術 1) 非経口的栄養摂取の援助 2 排泄援助技術 1) 導尿 2) 排便を促す援助 ①浣腸 ②摘便			
< 授業の進め方 > 1 年次 30 時間 2 年次 15 時間 講義 演習～技術試験あり ※清潔の援助技術の技術試験合格が生活援助基礎実習の受講要件となる。			

<受講要件>

なし

<テキスト>

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア

看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア

<参考文献>

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院

<評価方法>

学科試験

技術試験

分野	専門分野	授業科目	感染予防・与薬の援助
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次前期～後期、 2 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	1 年次 内川華奈子（15 時間・学院教員 看護師） 2 年次 学院教員（30 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > 感染予防・与薬に関する基本的な援助を学ぶ。 < 科目目標 > 標準予防策を理解し、実施できる。感染予防と感染性廃棄物の取り扱いを理解する。 薬物療法の援助及び検査の援助ができる。 < 授業内容 > ・ 1 年次（15 時間） 1 感染防止の技術 1) 感染とその予防の基礎知識 2) 標準予防策 3) 感染経路別予防策 4) 洗浄・消毒・滅菌 5) 感染性廃棄物の取り扱い 2 与薬の技術 1) 与薬の基礎知識 2) 経口与薬・口腔内与薬 3) 吸入 4) 点眼 5) 点鼻 6) 経皮的与薬 7) 直腸内与薬 ・ 2 年次（30 時間） 1 感染防止の技術 1) 無菌操作 2) 針刺し防止策 2 与薬の技術 1) 注射 2) 輸血管理 3 診察・検査・処置の援助			

<授業の進め方> 1 年次 15 時間 2 年次 30 時間 講義 演習～技術試験あり
<受講要件> なし
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア
<参考文献> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院
<評価方法> 学科試験 技術試験

分野	専門分野	授業科目	環境・活動・休息の援助
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次前期～後期、2 年次前期
講師名 （時間・所属）	1 年次 古賀 由美（26 時間・学院教員 看護師） 稲富 悦子（4 時間・佐賀県医療センター好生館 皮膚・排泄ケア認定看護師） 2 年次 学院教員（15 時間 学院教員 看護師）		

< 科目設定理由 >

環境・活動・休息に関する基本的な援助を学ぶ。

< 科目目標 >

療養環境を整える意義を理解し、基本的な援助が実施できる。

活動・休息・安楽への援助の意義を理解し、基本的な援助が実施できる。

褥瘡予防及びケアの方法について理解する。

< 授業内容 >

1 年次（30 時間）

・古賀講師

1 環境調整技術

- 1) 援助の基礎知識
- 2) 援助の実際

2 活動・休息援助技術

- 1) 基本的活動の援助
- 2) 睡眠・休息の援助

3 苦痛の緩和・安楽確保の技術

- 1) 体位保持
- 2) 罨法
- 3) 身体ケアを通じてもたらされる安楽

4 呼吸・循環を整える技術

- 1) 体温管理の技術
- 2) 末梢循環促進ケア

5 創傷管理技術

- 1) 創傷管理の基礎知識

・稲富講師

1 褥瘡発生リスクと予防方法

2 褥瘡の治癒過程

3 褥瘡のケア

2 年次（15 時間）

1 呼吸・循環を整える技術

- 1) 酸素療法（酸素吸入療法）
- 2) 排痰ケア（体位ドレナージ、咳嗽介助、ハフティング、吸引）
- 3) 胸腔ドレナージ
- 4) 吸入
- 5) 人工呼吸療法

2 創傷管理技術

- 1) 創傷処置

< 授業の進め方 >

講義

演習～技術試験あり

※シーツ交換の技術試験合格が療養見学実習の受講要件となる。

< 受講要件 >

なし

< テキスト >

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア

< 参考文献 >

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院

< 評価方法 >

学科試験

分野	専門分野	授業科目	クリティカルケアと看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次前期
講師名 （時間・所属）	岩村 高志（10 時間・佐賀県医療センター好生館 救急科 医師） 宮本 裕太（10 時間・佐賀県医療センター好生館副看護師長/クリティカルケア認定看護師/特定行為研修修了） 田中 由美・北川 誠也（10 時間・佐賀県医療センター好生館副看護師長/救急看護認定看護師/特定行為研修修了）		
< 科目設定理由 > クリティカルケアを必要とする患者及び家族の看護を学ぶ。 < 科目目標 > クリティカルな状況にある患者及び家族を理解する。 生命の危機にある対象の病態を理解し、必要な看護技術を理解する。 < 授業内容 > ・岩村講師 1 クリティカルな状況にある患者の病態の理解と看護 1) 過大侵襲を受けた患者の生体反応 2) 呼吸機能障害 3) 循環機能障害 4) 脳・神経機能障害 5) 消化機能障害 6) 栄養・代謝機能障害 7) 凝固・線溶系障害 8) 腎機能障害 9) 多臓器障害 10) 精神機能障害 ・宮本講師 1 クリティカルケアとは 1) クリティカルケア看護の特性 2) クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴 3) 危機状態にある患者・家族へのケア 2 クリティカルケア看護に必要なマネジメント、倫理・法律 1) クリティカルケアと看護管理 2) クリティカルケア看護とチーム医療 3) クリティカルケア看護と倫理・法律			

・田中/北川講師

1 クリティカルケア看護に必要な看護技術

- 1) 急変時の対応
- 2) 呼吸管理
- 3) 鎮痛・鎮静管理
- 4) 体液管理
- 5) 栄養管理
- 6) 体温管理
- 7) 創傷管理
- 8) ドレーン管理
- 9) 早期回復への援助

<授業の進め方>

講義・演習

<受講要件>

なし

<テキスト>

系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院

<参考文献>

なし

<評価方法>

学科試験

分野	専門分野	授業科目	周術期看護
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	2 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	伊東 正広（11 時間・学院教員 看護師） 草場智恵子(4 時間・佐賀県医療センター好生館看護師長/手術看護認定看護師)		
< 科目設定理由 > 手術療法を受ける患者及び家族に対する必要な看護を学ぶ。 < 科目目標 > 手術を受ける患者の術前・術中・術後を通し、身体的状態や家族を含めた看護が理解できる。 手術室における看護の実際と看護師の役割が理解できる。 < 授業内容 > ・伊東講師 1 周手術期看護とは 2 手術前患者の看護 3 手術後患者の看護 4 事例展開 ・草場講師 1 外科治療を支える分野 麻酔法、呼吸管理 2 手術中患者の看護			
< 授業の進め方 > 講義・演習			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			
< 参考文献 > 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 臨床外科看護各論 医学書院			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	リハビリテーションと看護
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	2 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	市丸 勝昭（6 時間・佐賀県医療センター好生館 理学療法士） 江口 玲奈（9 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > リハビリテーションを受ける患者の看護を学ぶ。 < 科目目標 > リハビリテーションの意義について理解し、回復時期や障害に応じたリハビリテーションの機能や役割を理解する。 < 授業内容 > ・市丸講師 1 リハビリテーション総論 2 リハビリテーション看護の概要 3 リハビリテーション看護の対象 4 リハビリテーション看護に関する法制度 5 ステージ別リハビリテーション看護 6 生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 A. 運動機能障害 ・江口講師 1 リハビリテーション看護概論 2 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 3 呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション看護 4 感覚器系の障害とリハビリテーション看護			
< 授業の進め方 > 講義・演習			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	地域と暮らし
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	坂井 由美子（15 時間・学院教員 看護師） 古澤 貞善（7 時間・兵庫地区民生委員・主任児童委員） 貞包 有希子（8 時間・佐賀市社会福祉協議会 社会福祉士） ※うち 4 時間ボランティア活動参加		
< 科目設定理由 > 地域で生活する人々への看護を学ぶ第一歩として、自分たちが住んでいる地域やそこに住む人々の暮らしを学ぶ。 < 科目目標 > 自分たちが住む地域やそこに住む人々の暮らしを理解し、交流を図る。 ボランティア活動について理解し、活動に参加する。 < 授業内容 > ・ 坂井講師 1 人々の暮らしと地域・在宅看護 2 暮らしの基盤としての地域の理解 3 地域包括ケアシステムと地域共生社会 ・ 古澤講師 1 校区内である兵庫地区の特徴「兵庫学」 2 地域の活性化への取り組み 3 地域住民が安心して暮らすための支援 ・ 貞包講師 1 ボランティア精神とは 2 ボランタリズム・人間・命への優しさ 3 ボランティア活動の意義 行政制度とボランティアの役割 4 ボランティア活動の実際・現状と課題 5 社会福祉協議会について 6 ボランティア活動参加（4 時間） < 授業の進め方 > 講義 演習：佐賀市兵庫地区フィールドワーク ボランティア活動（4 時間） ※自ら手配し、ボランティア活動報告書を 2 月末までに提出する。			

<受講要件> なし
<テキスト> 講師の資料
<参考文献> なし
<評価方法> 坂井：レポート等 古澤講師：レポート等 貞包講師：評価なし

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護総論
単位（時間）	2 単位（45 時間）	開講時期	2 年次後期
講師名 （時間・所属）	西尾美登里（15 時間・帝京大学教授） 新坂 幸大（11 時間・ナースライセンススクール WAGON 講師・保健師） 村尾 眞治（11 時間・訪問看護ステーション Reaf くるめ精神科認定看護師） 吉田美佳（6 時間・在宅看護センターびり〜ぶ 緩和ケア認定看護師） 在宅生活サポートセンター見学（2 時間）		
＜科目設定理由＞ 地域で生活する人々とその家族を理解し、地域におけるさまざまな場での看護の基礎を学ぶ。 ＜科目目標＞ 在宅で療養する対象と家族を支える看護の役割と支援方法について理解する。 また、その生活を支えるための社会資源の活用について理解する。 ＜授業内容＞ ・西尾講師 1 地域・在宅看護の展開 地域・在宅看護における看護過程 地域・在宅看護過程の展開方法 ・新坂講師 1 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 介護保険・医療保険制度 地域・在宅看護に関わる医療提供体制 訪問看護の制度 地域保健に関わる法制度 高齢者に関する法制度 障害者・難病に関する法制度 公費負担医療に関する法制度 権利保障に関する法制度 ・村尾講師 1 暮らしを支える看護技術 社会資源の活用 リハビリテーションの援助方法 2 在宅療養者の症状・状態別の看護 脳血管疾患 認知症 精神障害 感染症 ・吉田講師 1 地域・在宅看護の対象 地域・在宅看護の対象者 家族の理解 地域に暮らす対象者の理解と看護 2 在宅療養者の症状・状態別の看護 難病患者の在宅看護 在宅人工呼吸器療法（吸引・気管切開口のケアを含む） 在宅ターミナルケア（がんの痛みの治療法・疼痛コントロール含む） ・在宅生活サポートセンター見学			

<授業の進め方> 講義 演習 在宅生活サポートセンター
<受講要件> なし
<テキスト> 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践
<参考文献>
<評価方法> 学科試験
<評価方法> 西尾講師、新坂講師、村尾講師：学科試験等 吉田講師：評価なし

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅療養を支える看護Ⅰ
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次後期～3 年次前期
講師名 （時間・所属）	2 年次 富永 正樹（4 時間・久留米大学医学部地域医療連携講座教授） 上野 幸子（7 時間・元西九州大学講師 看護師） 森永 育美（4 時間・佐賀県医療センター好生館 入退院支援センター 副看護師長） 前田 律子（4 時間・佐賀県医療センター好生館 地域医療連携室 看護師） 3 年次 八谷 敬子（2 時間・地域包括支援センター） 地域包括支援センター見学（9 時間 学びの共有会含む）		
< 科目設定理由 > 地域・在宅療養に関する多職種連携及び地域連携の重要性を学び、その実際を知る。 < 科目目標 > 在宅で療養する対象と家族の生活を支える看護について学び、切れ目のない看護を行うためのシステムや関係職種との連携について理解する。 < 授業内容 > ・ 2 年次 富永講師 1 地域連携とは 2 地域連携の必要性和意義 3 地域連携・多職種連携の必要性 4 地域連携において他職種から看護職に期待するもの 上野講師 1 地域・在宅看護実践の場と連携 2 地域・共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働 3 地域・在宅看護マネジメント 4 地域・在宅看護活動の創造と展開例 森永講師 1 入退院支援の実際と看護（入退院支援センター） 前田講師 1 地域における多職種連携の実際（地域医療連携センター） ・ 3 年次 八谷講師 1 地域における多職種連携の実際（地域包括支援センター） 地域包括支援センター見学 ※学びの共有会含む			

<授業の進め方> 講義 演習：3年次 地域包括支援センター見学 9時間
<受講要件> なし
<テキスト> 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践
<参考文献> なし
<評価方法> 上野講師：学科試験 他評価なし

文弥	専門分野	授業科目	地域・在宅療養を支える看護Ⅱ
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次後期
講師名 （時間・所属）	馬場美代子(10 時間・在宅看護センターびり～ぶ所長・訪問看護認定看護師) 井手久仁子(7 時間・在宅看護センターびり～ぶ 訪問看護認定看護師) 森歩（7 時間・在宅看護センターびり～ぶ・がん看護専門看護師） 内山美穂（6 時間・在宅看護センターびり～ぶ・看護師）		
< 科目設定理由 > 在宅で療養する対象に提供されている訪問看護の実際を学ぶ。 < 科目目標 > 在宅で療養する人々への日常生活援助を理解する。 主な症状、治療に伴う看護の実際を理解する。 < 授業内容 > ・馬場講師・井手講師 1 地域における暮らしを支える看護 暮らしを支える地域・在宅看護 暮らしの環境を整える看護 広がる看護の対象と提供方法 地域における家族への看護 地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策 2 暮らしを支える看護 暮らしの場で看護をするための心構え セルフケアを支える対話・コミュニケーション 地域・在宅看護における家族を支える看護 地域・在宅看護における安全を守る看護 地域における暮らしを支える看護（食生活・嚥下 排泄 呼吸・循環 創傷管理） 3 地域・在宅看護の事例展開 医療的ケア児の事例展開 慢性閉塞性肺疾患の療養者の事例展開 ・森・内山講師 1 暮らしを支える看護技術 療養環境調整、活動・休息、食生活・嚥下、排泄、清潔・衣生活、苦痛の緩和・安楽確保、呼吸・循環、創傷管理、与薬） 2 地域・在宅看護における時期別の看護			
< 授業の進め方 > 講義			

< 受講要件 >

なし

< テキスト >

医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤

医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践

< 参考文献 >

なし

< 評価方法 >

学科試験

分野	専門分野	授業科目	在宅救急看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次前期
講師名 （時間・所属）	井川 福康（30 時間・日本赤十字社佐賀県支部 指導員 ） 他		
< 科目設定理由 > 地域・在宅における救急時の対応について学ぶ。 < 科目目標 > 地域・在宅における救急時の応急処置の知識・具体的方法を習得する。 < 授業内容 > 日本赤十字社による救急法の受講			
< 授業の進め方 > 講義 演習			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 講師指定（救急蘇生法）のテキスト			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験及び実技試験			

分野	専門分野	授業科目	成人看護学総論
単位（時間）	2 単位（45 時間）	開講時期	1 年次前期～後期 2 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	1 年次 小池久美（25 時間・看護師） 森内あおい（6 時間・佐賀県健康福祉政策課 歯科衛生士） 藤森静香（4 時間・佐賀県医療センター好生館緩和ケア認定看護師） 2 年次 岸副 登記子（4 時間・佐賀県医療センター好生館 がん化学療法看護認定看護師） 白谷 みのり（4 時間・佐賀県医療センター好生館 副看護師長 がん放射線療法看護認定看護師） 原田健作（2 時間・佐賀県医療センター好生館 相談支援部）		
< 科目設定理由 > 青年期、壮年期、向老期と長期にわたり社会的責任・役割が大きい段階における看護について学ぶ。 < 科目目標 > 成人期の特徴を理解し、健康に影響を与える要因、健康の保持・増進、疾病の予防・治療、生活習慣病や人生の最期のときを支える看護について学ぶ。 成人期における看護の特徴と基礎的知識、技術を習得する。 < 授業内容 > 1 年次（35 時間） ・小池講師 1 成人の生活と健康 2 成人への看護アプローチの基本 3 成人の健康レベルに対応した看護 4 健康をおびやかす要因と看護 ・森内講師 1 生活と健康 歯科保健 ・藤森講師 1 人生の最期の時を支える看護 疼痛のアセスメント 疼痛コントロール 生活の質の保証 悲嘆へのケア 2 年次（10 時間） ・岸副講師 1 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 がん化学療法の看護 ・白谷講師 1 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 がん放射線療法の看護 ・原田講師 1 成人期にある患者への社会的支援			

<授業の進め方> 講義
<受講要件> なし
<テキスト> 小池：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 成人看護学総論 医学書院 岸副・白谷：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 白谷：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 藤森：系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 原田：テキストなし 国民衛生の動向 厚生統計協会
<参考文献> なし
<評価方法> 小池講師：学科試験 上記以外は評価なし

分野	専門分野	授業科目	呼吸器・循環器疾患の看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	能間 国光（11 時間・ナースライセンススクール WAGON 講師 看護師） 小柳ありさ（4 時間・佐賀県医療センター好生館 副看護師長） 寺田恭巳子（8 時間・佐賀県医療センター好生館 看護師長/ 心不全 看護認定看護師） 能間 国光（7 時間・ナースライセンススクール WAGON 講師 看護師）		
< 科目設定理由 > 呼吸器・循環器疾患を持つ患者の看護について学ぶ。 < 科目目標 > 呼吸器・循環器疾患の患者の特徴と看護の役割を理解し、それぞれの疾患や治療に応じた看護の基礎を習得する。 < 授業内容 > ・ 能間講師（呼吸器内科） 1 呼吸器疾患を持つ患者の経過と看護 2 主要症状のある患者の看護 3 治療・検査を受ける患者の看護 ・ 小柳講師(呼吸器外科) 1 呼吸器疾患を持つ患者の看護 2 胸腔ドレナージを受ける患者の看護 3 手術を受ける患者の看護 4 事例による看護過程の展開／胸腔鏡下手術を受ける患者の看護 ・ 寺田講師（循環器） 1 疾患を持つ患者の看護 虚血性心疾患・心不全・血圧異常・不整脈・弁膜症・心筋症・ 先天性心疾患・動脈系疾患 2 心臓リハビリテーションと看護 3 事例による看護過程の展開 ・ 能間講師（循環器） 1 疾患を持つ患者の経過と看護 2 症状に対する患者の看護 3 治療・検査を受ける患者の看護 4 事例展開			
< 授業の進め方 > 講義・演習			
< 受講要件 > なし			

<テキスト>

系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院

<参考文献>

なし

<評価方法>

学科試験

分野	専門分野	授業科目	消化器疾患の看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	能間 国光（15 時間・ナースライセンススクール WAGON 講師 看護師） 俵 麻美（佐賀県医療センター好生館副看護師長/皮膚・排泄ケア認定看護師） 陣内真帆（佐賀県医療センター好生館 看護師） 松尾慧美（佐賀県医療センター好生館 副看護師長） 15 時間		
< 科目設定理由 > 消化器疾患を持つ患者の看護について学ぶ。 < 科目目標 > 消化器疾患の患者の特徴と看護の役割を理解し、それぞれの疾患や治療に応じた看護の基礎を習得する。 < 授業内容 > ・ 能間講師（内科的療法） 1 消化器疾患を持つ患者の経過と看護 2 主要症状のある患者の看護 3 検査および内科的治療を受ける患者の看護 ・ 俵講師、陣内講師、松尾講師（外科的療法） 1 手術療法を受ける患者の看護 2 ストーマ造設術を受ける患者の看護			
< 授業の進め方 > 講義			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院（外科的療法）			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	内分泌・代謝、腎臓疾患の看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	南里 穂（15 時間・佐賀大学医学部附属病院 慢性疾患専門看護師） 新坂 幸大（11 時間・ナースライセンススクール WAGON 講師 保健師） 諸泉かおり（4 時間・佐賀県医療センター好生館副看護師長）		
<科目設定理由> 内分泌・代謝、腎臓疾患を持つ患者の看護について学ぶ。 <科目目標> 内分泌・代謝、腎臓疾患の患者の特徴と看護の役割を理解し、それぞれの疾患や治療に応じた看護の基礎を習得する。 糖尿病及び腎臓疾患の患者教育について理解する。 <授業内容> ・南里講師 1 内分泌・代謝疾患を持つ患者の経過と看護 2 事例による看護過程の展開 ・新坂講師 1 腎臓疾患を持つ患者の経過と看護 2 腎臓疾患の看護過程の展開と患者教育 ・諸泉講師 1 透析療法を受ける患者の看護・患者教育 <講義の進め方> 講義 <受講要件> なし <テキスト> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院 まるごと図解 腎臓病と透析 照林社 <参考文献> なし <評価方法> 南里講師、新坂講師：学科試験 諸泉講師：評価なし			

分野	専門分野	授業科目	血液、感染・アレルギー、 女性生殖器疾患の看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次前期～3 年次後期
講師名 （時間・所属）	2 年次 水田 美幸(9 時間・佐賀県医療センター好生館 副看護師長) 柴木 弘（2 時間・血液センター職員） 井上ゆずか（6 時間・庄野真由美レディースクリニック 助産師） 新坂幸大（2 時間・ナースライセンススクール WAGON 講師 保健師） 3 年次 小野原由香（6 時間・佐賀県医療センター好生館 看護師） 新坂幸大（5 時間・ナースライセンススクール WAGON 講師 保健師）		
< 科目設定理由 > 血液、感染・アレルギー・膠原病、女性生殖器疾患を持つ患者の看護について学ぶ。 < 科目目標 > 血液、感染・アレルギー・膠原病、女性生殖器疾患の患者の特徴と看護の役割を理解し、それぞれの疾患や治療に応じた看護の基礎を習得する。 < 授業内容 > ・ 2 年次 水田講師 1 血液・造血器疾患をもつ患者の経過と看護： 主要症状を有する患者の看護／治療・検査を受ける患者の看護 柴木講師 1 血液製剤について 井上講師 1 女性生殖器（外陰／膣／子宮・卵巣）に健康問題を持つ対象の看護 2 不妊問題を持つ対象の看護 新坂講師 1 乳がん患者の看護：患者の病態生理に基づく特徴／症状・疾患の経過と看護 ／治療・処置（手術療法を含む）の看護 ・ 3 年次 小野原講師 1 感染症を持つ患者の経過と看護 新坂講師 1 アレルギー・膠原病疾患をもつ患者の経過と看護			
< 講義の進め方 > 講義			
< 受講要件 > なし			

<テキスト>

系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕 アレルギー膠原病感染症 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院

<参考文献>

なし

<評価方法>

2年次

水田講師、井上講師：学科試験 他評価なし

3年次

学科試験

分野	専門分野	授業科目	老年看護学総論
単位（時間）	2 単位（45 時間）	開講時期	1 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	古賀 由美 （41 時間・学院教員 看護師） 北原 真由子（4 時間・佐賀県医療センター好生館 摂食・嚥下障害看護認定看護師）		
< 科目設定理由 > 老年期の特徴を理解し、高齢者を取り巻く社会環境や保健・医療・福祉の現状を踏まえ、様々な場で高齢者の生活機能を支える看護について学ぶ。 老いについて考える。 < 科目目標 > 加齢に伴う高齢者の身体的変化を正しく理解する。 複数の疾患を合併することの多い高齢者の医療ケアを生活機能との関連を踏まえた視点でとらえる。 高齢者特有のリスクについて理解する。 < 授業内容 > ・ 古賀講師 1 老いを生きるということ 2 超高齢社会と社会保障 3 老年看護のなりたち 4 高齢者のヘルスアセスメント 5 高齢者の生活を整える看護 6 健康逸脱からの回復を促す看護 7 治療を必要とする高齢者の看護 8 エンドオブライフケア 9 生活・療養の場における看護 ・ 北原講師 1 摂食嚥下のメカニズム 2 老化を含む摂食嚥下障害の要因とメカニズム 3 摂食嚥下障害のケア < 授業の進め方 > 講義 演習～高齢者体験、摂食嚥下障害のケア			

<受講要件>

なし

<テキスト>

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
厚生統計協会 国民衛生の動向（古賀講師）

<参考文献>

なし

<評価方法>

古賀講師：学科試験
北原講師：評価なし

分野	専門分野	授業科目	高齢者の看護Ⅰ
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次後期
講師名 （時間・所属）	松尾 瑞穂（7 時間・佐賀県医療センター好生館 副看護師長） 田島 朝美（6 時間・佐賀県医療センター好生館 副看護師長） 徳永 香里（8 時間・佐賀県医療センター好生館 副看護師長 脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師） 新坂 幸大（9 時間・WAGON 講師 看護師）		
< 科目設定理由 > 運動器・脳神経系に健康問題を持つ高齢者の看護について学ぶ。 < 科目目標 > 加齢に伴い生じる高齢者の身体的及び精神的変化を理解する。 運動器・脳神経系に健康問題を持つ高齢者の看護の基礎を理解する。 < 授業内容 > ・松尾講師・田島講師 1 運動器系に健康問題を持つ対象への看護 ・徳永講師 1 脳・神経系に健康問題をもつ対象への看護（外科系） ・新坂講師 1 脳・神経系に健康問題をもつ対象への看護（内科系）			
< 授業の進め方 > 講義～事例展開			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	高齢者の看護Ⅱ
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次後期～3 年次後期
講師名 （時間・所属）	2 年次 江頭 賢治（5 時間・佐賀県医療センター好生館 看護師） 林田 佳奈（6 時間・佐賀県医療センター好生館 副看護師長 認知症看護認定看護師） 3 年次 学院教員（19 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > 眼・耳鼻咽喉・皮膚・泌尿器・認知機能に健康問題を持つ高齢者の看護について学ぶ。 < 科目目標 > 加齢に伴い生じる高齢者の身体的及び精神的変化を理解する。 眼・耳鼻咽喉・皮膚・泌尿器・認知機能に健康問題を持つ高齢者の看護の基礎を理解する。 < 授業内容 > ・2 年次 吉末講師 1 眼疾患を持つ高齢者の看護 林田講師 1 認知機能が障害された高齢者の看護 ・3 年次 学院教員 1 耳鼻咽喉疾患を持つ高齢者の看護 2 皮膚疾患を持つ高齢者の看護 3 泌尿器疾患を持つ高齢者の看護			
< 講義の進め方 > 講義			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 13 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	小児看護学総論
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次後期
講師名 （時間・所属）	鈴木智恵子（15 時間・佐賀大学医学部看護学科 小児看護学教授） 岡部 千穂（15 時間・本学院実習指導員 助産師）		
< 科目設定理由 > 小児を取り巻く社会環境や保健・医療・福祉の現状を踏まえ、様々な発達段階や健康状態にある小児期の看護について学ぶ。 < 科目目標 > 様々な発達段階や健康状態にある小児を理解する。 子どもと家族を取り巻く社会について理解する。 様々な状況にある子どもと家族のあり方を学ぶ。 < 授業内容 > ・鈴木講師 1 小児看護の特徴と理念 2 病気、障害を持つ子どもと家族の看護 3 子どもの状況・環境に特徴づけられる看護 4 子どもにおける疾病の経過と看護、 5 子どものアセスメント 6 症状を示す小児の看護 7 検査・処置を受ける子どもの看護 8 障害のある子どもと家族の看護 ・岡部講師 1 子どもの成長・発達 新生児・乳児・幼児・児童・学童・思春期・青年期 2 家族の特徴とアセスメント 3 子どもと家族を取り巻く社会 4 子どもの虐待と看護			
< 授業の進め方 > 講義			
< 受講要件 > なし			

<テキスト>

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論
医学書院

<参考文献>

ナーシンググラフィカ 小児看護学 1 小児の発達と看護 メディカ出版

<評価方法>

学科試験

分野	専門分野	授業科目	小児の病態論
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次前期
講師名 （時間・所属）	西村 真二（30 時間・佐賀県医療センター好生館 小児科 医師）他		
< 科目設定理由 > 成長発達段階にある小児期の病態について学ぶ。 < 科目目標 > 小児期の疾患の特徴を理解し、疾病の成り立ちと回復、治療、処置を理解する。 < 授業内容 > 1 染色体異常・体内環境により発症する先天異常 2 代謝性疾患 3 内分泌疾患 4 新生児の主な疾患 5 免疫・アレルギー疾患 6 感染症 7 呼吸器疾患 8 循環器疾患 9 消化器疾患 10 血液・造血器疾患 11 悪性新生物 12 腎・泌尿器疾患及び生殖器疾患 13 神経疾患 14 運動器疾患 15 皮膚疾患 16 感覚器疾患（眼・耳鼻咽喉科） 17 精神疾患 18 事故・外傷 19 虐待			
< 授業の進め方 > 講義			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	疾患をもつ小児の看護
単位（時間）	2 単位（45 時間）	開講時期	2 年次後期
講師名 （時間・所属）	橋口佳奈子（佐賀県医療センター好生館副看護師長） 竹下安紀子（佐賀県医療センター好生館副看護師長） 飯盛 直子（佐賀県医療センター好生館副看護師長） 岡部 千穂（23 時間・学院実習指導員 助産師） 中村美也子（2 時間・国立病院機構佐賀病院 NICU 実習指導者）		
＜科目設定理由＞ 健康問題を持つ小児と家族の看護について学ぶ。 ＜科目目標＞ 小児特有の健康問題について理解する。 患児とその家族への支援の方法を学ぶ。 ＜授業内容＞ ・橋口講師・竹下講師・飯盛講師 1 検査・処置を受ける小児の看護 2 健康問題を持つ小児とその家族への看護 染色体異常・先天異常、免疫・アレルギー・リウマチ、血液・造血器疾患 悪性新生物、腎泌尿器・女性生殖器、運動器疾患、消化器疾患 ・岡部講師 1 内分泌代謝系の健康問題を持つ小児と家族の看護 2 感染症を持つ小児と家族の看護 3 呼吸器系の健康問題を持つ小児と家族の看護 4 循環器系の健康問題を持つ小児と家族の看護 5 神経系の健康問題を持つ小児と家族の看護 6 感覚器系の健康問題を持つ小児と家族の看護 7 精神に健康問題を持つ小児と家族の看護 8 事故・外傷による健康問題を持つ小児と家族の看護 ・中村講師 1 NICU の概要 病床数、看護体制、入院日数、疾病など 2 患児の受け入れ体制 3 ハイリスク児の看護 治療を含む看護の実際、母子関係への援助など 4 継続看護 退院後のフォローアップ、地域・他職種等との連携、訪問看護など			
＜授業の進め方＞ 講義			
＜受講要件＞ なし			

<テキスト>

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論
系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院

<参考文献>

ナーシンググラフィカ 小児看護学 1 小児の発達と看護 メディカ出版
国民衛生の動向 厚生統計協会

<評価方法>

学科試験
中村講師 評価なし

分野	専門分野	授業科目	母性看護学総論
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次後期～2 年次後期
講師名 （時間・所属）	1 年次 恒松美雪（15 時間・助産学科教員 助産師） 2 年次 森本眞寿代（15 時間・産業医科大学保健医療学部教授 助産師）		
< 科目設定理由 > 母性における看護の特徴を学ぶ。 母性の捉え方を考える。 < 科目目標 > 母性の特徴や取り巻く環境を理解する。 リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）について理解する。 < 授業内容 > 1 年次（恒松講師） 1. 母性看護の基盤となる概念 2. 母性看護の対象理解 3. リプロダクティブヘルスケア 2 年次（森本講師） 1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 2. 母性看護に必要な看護技術 3. 女性のライフステージ各期における看護			
< 授業の進め方 > 講義・演習 1 年次 15 時間 2 年次 15 時間			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論 医学書院 ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程 第 4 版 医歯薬出版株式会社（2 年次）			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	周産期病態論
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	八並直子（17 時間・佐賀県医療センター好生館 産婦人科 医師） 室 雅巳（13 時間・佐賀県医療センター好生館 産婦人科 医師）		
< 科目設定理由 > 生命誕生の過程と周産期及び新生児期の病態について学ぶ。 < 科目目標 > 周産期及び新生児期の身体的特徴の正常を理解する。 妊娠・分娩・産褥期の異常時の病態、検査、治療、処置について理解する。 < 授業内容 > ・ 八並講師 1 遺伝相談・不妊治療（第 2 章 B, C－①②③④） 2 妊娠期の理解（第 3 章 ABC） 3 妊娠の異常（第 7 章 I ABCDE） 4 新生児の理解（第 5 章 AB） 5 新生児の異常（第 7 章ⅢABCDE） ・ 室 講師 1 分娩期の理解（第 4 章 AB） 2 分娩の異常（第 7 章 II－ABCDEFGHI） 3 産褥期の理解（第 6 章 A） 4 産褥の異常（第 7 章 IV－ABCDE） 5 精神障害合併妊婦とその家族（第 7 章 V）			
< 授業の進め方 > 講義			
< 受講要件 > なし			
< テキスト > 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院			
< 参考文献 > なし			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	周産期看護
単位（時間）	2 単位（45 時間）	開講時期	2 年次前期～3 年次前期
講師名 （時間・所属）	2 年次 井上ゆずか（15 時間・庄野真由美レディースクリニック 助産師） 服部美佳（佐賀県医療センター好生館 助産師） 桑原洋子（佐賀県医療センター好生館 助産師） 3 年次 俵 由里子（15 時間・佐賀県医療センター好生館 助産師 母性看護専門看護師）		
< 科目設定理由 > 妊娠期・分娩期・産褥期である周産期の看護を学ぶ。 < 科目目標 > 周産期及び新生児の正常と異常について理解する。 また、周産期における対象とその家族の看護を理解する。 < 授業内容 > ・ 2 年次 井上講師 1 妊娠期・分娩各期の看護 身体的特徴 心理・社会的特性 妊婦と胎児の状態の理解と看護 妊婦とその家族の援助 服部講師/ 桑原講師 1 産褥期の看護と新生児とその家族への看護 身体的特徴 心理・社会的特性 褥婦と新生児の状態の理解と看護 褥婦とその家族への援助 産褥の経過の理解とアセスメント・援助方法 新生児の生理とアセスメント・援助方法 ・ 3 年次 俵講師 1 異常経過をたどる周産期看護 妊娠各期の異常と看護 分娩各期の異常と看護 各期の異常に対しての精神面の看護 < 講義の進め方 > 講義 演習～新生児沐浴、バイタルサイン測定、身体計測等 < 受講要件 > なし			

<テキスト>

系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院
病気がみえる 産科 メディックメディア
ナーシンググラフィカ 母性看護技術

<参考文献>

なし

<評価方法>

学科試験

分野	専門分野	授業科目	精神看護学総論
単位（時間）	2 単位（30 時間）	開講時期	2 年次前期～後期
講師名 （時間・所属）	浦川亮介（中多久病院外来看護師長 看護師） 円城寺真（中多久病院看護師長 精神看護認定看護師） 溝口好弘（訪問看護ステーションなずな管理者 看護師） 花房喜代治(佐賀県医療センター好生館 精神看護認定看護師) 諸隈正子(佐賀県医療センター好生館副看護師長 精神看護認定看護師) 田中希代子（7 時間・学院教員 看護師） 15 時間 8 時間		
< 科目設定理由 > 心の健康を支援する精神看護について学ぶ。 < 科目目標 > 人間の心の動きと発達、人間関係について学び、「心の健康とは何か」を考える。 現代社会におけるメンタルヘルスの実際を理解する。 < 授業内容 > ・ 浦川講師/円城寺講師/溝口講師 1 精神看護学で学ぶこと 2 精神保健の考え方 3 心の働きと人格の形成 4 社会の中の精神障害 5 地域におけるケアと支援 6 災害時のメンタルヘルスと看護 ・ 花房講師/諸隈講師 1 関係の中の人間 2 ケアの人間関係 3 医療の場におけるメンタルヘルスと看護 4 看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルス ・ 田中講師 1 実習における治療的人間関係 2 精神看護学実習における看護実践 3 患者-学生間に生じること			
< 授業の進め方 > 講義・演習			
< 受講要件 > 心理学の単位を取得していること。			

<テキスト>

系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎 医学書院

系統看護学講座 専門分野 精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院

<参考文献>

国民衛生の動向 厚生統計協会

<評価方法>

学科試験、レポート等で評価

分野	専門分野	授業科目	精神の病態論
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	2 年次後期
講師名 （時間・所属）	国武 裕（佐賀県医療センター好生館 精神科部長 医師） 角南 隆史（佐賀県医療センター好生館 精神科 医師）		
15 時間			
<科目設定理由> 精神疾患の病態・治療・検査について学ぶ。 <科目目標> 精神疾患の病因と疾病の特徴及び病態・治療・検査について理解する。 <授業内容> 1 精神科疾患のあらわれ方 精神障害の診断と分類 2 精神科での治療 3 社会のなかの精神障害 精神障害と法制度			
<授業の進め方> 講義			
<受講要件> 心理学の単位を取得していること。			
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院			
<参考文献> なし			
<評価方法> 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	精神疾患の看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次後期（9 月～3 月）
講師名 （時間・所属）	江田進（肥前精神医療センター 看護師） 佐藤繁治（肥前精神医療センター 看護師） 中嶋将光（肥前精神医療センター 看護師） 松尾清隆（肥前精神医療センター 看護師） 花房喜代治（佐賀県医療センター好生館 精神看護認定看護師） 諸隈 正子（佐賀県医療センター好生館 副看護師長 精神看護認定看護師） } 15 時間 } 15 時間		

< 科目設定理由 >

精神疾患を持つ患者の看護について学ぶ。

< 科目目標 >

精神疾患の治療や症状のあらわれ方を理解し、ケアのプロセスを学ぶ。

< 授業内容 >

・花房講師/諸隈講師

1 精神科での治療と看護

1) 精神療法、家族療法、薬物療法、電気けいれん療法、環境療法・社会療法

2 入院治療の意味

1) 精神科を受診すること

2) 治療の器としての病院・病棟

3) 入院中の観察とアセスメント

4) ケアの方向性を考える（患者の参加とケアプランの立て方）

5) 退院に向けての支援とその実際

3 安全を守る

1) リスクマネジメントの考え方と方法

2) 緊急事態に対処する

自殺、暴力、無断離院、感染症

3) 緊急事態とスタッフの支援

4 事例展開

・中嶋講師/佐藤講師

1 精神疾患のあらわれ方

1) 精神を病むことと生きること

2) さまざまな精神症状と看護

3) 疾患別看護

・江田講師 2 回復を支援する 1) 回復の意味 2) リカバリーのヴィジョン 3) 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 4) リカバリーを促す環境 5) リカバリーを促す方法としてのグループ 6) さまざまな回復のプログラム ・松尾講師 3 身体をケアする 1) 精神科における身体のケア 2) 精神科における身体を通した看護ケアの実際 3) 治療に伴う身体のケア 4) 身体合併症のアセスメントとケア 5) 精神科における終末期ケア
<授業の進め方> 講義 演習
<受講要件> 精神看護学総論の講義を受講しておくこと。
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院
<参考文献> なし
<評価方法> 学科試験

分野	専門分野	授業科目	看護管理
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	3 年次前期
講師名 （時間・所属）	宮地由美子（9 時間・佐賀県医療センター好生館看護部長 認定看護管理者） 松本 尚子（6 時間・副学院長 認定看護管理者）		
< 科目設定理由 > ケアに関わる全ての者が担うものとして理解し、看護のマネジメントを学ぶ。 < 科目目標 > 看護ケアが看護サービスとして成り立つための体制について理解する。 < 授業内容 > ・宮地講師 1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 3 看護職のキャリアマネジメント 4 看護サービスのマネジメント 5 マネジメントに必要な知識と技術 ・松本講師 1 看護管理とは 2 看護を取り巻く諸制度			
< 授業の進め方 > 講義・演習			
< 受講要件 > 基礎看護学の科目を受講しておくこと。			
< テキスト > 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理 医学書院			
< 参考文献 > やさしい看護者の倫理綱領 照林社 看護六法 新日本法規			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	医療安全
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次 前期～3 年次後期
講師名 （時間・所属）	1 年次： 小池久美（15 時間・看護協会他非常勤講師 看護師） 3 年次： 福井 直子(11 時間・佐賀県医療センター好生館医療安全部看護師長) 佐藤 裕美(5 時間・佐賀県医療センター好生館医療安全部副看護師長) 山口 文美(6 時間・佐賀県医療センター好生館感染制御部副看護師長 感染管理認定看護師) 好生館職員(8 時間・佐賀県医療センター好生館臨床工学技士)		
＜科目設定理由＞ 対象や医療関係者の安全を守り、医療事故を防止するために、医療安全に関する基礎的知識と技術を学ぶ。 ＜科目目標＞ 医療安全を学ぶ重要性を理解し、医療現場に潜む危険を認識できる。 事故防止に対する具体的な対策について理解する。 ＜授業内容＞ 1 年次（15 時間） ・小池講師 1 医療安全を学ぶことの大切さ 2 事故防止の考え方 3 療養上の世話の事故防止 4 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 ・業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 5 医療安全とコミュニケーション ・不正確・不十分なコミュニケーションは事故の発生要因 ・事故防止のための医療職間のコミュニケーション 3 年次（30 時間） ・福井講師 1 診療の補助の事故防止 ・総論、輸血業務、内服与薬業務、経管栄養、チューブ管理 2 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 ・間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 ・新人特有の危険な思い込みと行動パターン 3 医療安全とコミュニケーション ・医療事故防止のための患者とのコミュニケーション ・事故の未然防止上重要なコミュニケーション 4 看護師の労働安全衛生上の事故防止 ・ラテックスアレルギー、院内暴力 5 組織的な安全管理体制への取り組み 6 医療安全対策の国内外の潮流			

・佐藤講師 1 診療の補助の事故防止 ・注射業務と事故防止 ・山口講師 1 組織としての感染管理（感染予防 パンデミック防止） 2 看護師の労働安全衛生上の事故防止 ・職業感染 ・古我講師 1 診療の補助業務に伴う事故防止 ・医療機器の仕組みと安全な操作方法 ・医療機器使用に伴う危険と管理 （輸液ポンプ シリンジポンプ 心電図モニター 人工呼吸器 等）
<講義の進め方> 講義 演習 1 年次 15 時間 3 年次 30 時間
<受講要件> 1 年次…なし 3 年次…1 年次医療安全、基礎看護技術の講義を受講していること
<テキスト> 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 2 医療安全 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー膠原病感染症 医学書院 （山口講師） 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論（好生館職員）
<参考文献> なし
<評価方法> 1 年次：小池講師：学科試験 3 年次：福井、佐藤講師：学科試験 山口、好生館職員臨床工学士：評価なし

分野	専門分野	授業科目	災害看護・国際看護
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	3 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	内田陽一郎（7 時間・佐賀県医療センター好生館副看護師長/特定行為研修修了） 災害訓練現地講義（4 時間・好生館） 小倉 志帆（4 時間・日本学術振興会ケニア拠点副センター長）		
< 科目設定理由 > 頻発する災害における看護について学ぶ。 多様な状況にある様々な国や地域の人々に対する活動を学ぶ。 < 科目目標 > 災害についての知識を深め、災害医療の概念、災害看護の基本と看護師の役割を理解する。 国際社会の現状と国際看護活動について興味を持つ。 < 授業内容 > ・内田講師 1 災害の定義 2 災害の種類と特徴 3 災害医療の基本 4 災害看護の基本 ・災害が対象者及び医療者に対して心身に及ぼす影響 ・初期情報からアセスメント・トリアージ体制 ・災害訓練現地講義 好生館災害訓練参加 ・小倉講師 1 国際社会の現状 2 国際看護活動の支援を必要とする対象 3 国際看護活動を推進する人や機関 4 国際交流 ・異文化理解 < 授業の進め方 > 講義 演習：現地講義～好生館での災害訓練（4 時間） ※参加できなかった場合は佐賀空港災害訓練に参加 < 受講要件 > 基礎看護学の科目を受講していること。			

<テキスト> 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院
<参考文献> なし
<評価方法> 内田講師：学科試験 原講師：評価なし

分野	専門分野	授業科目	看護統合実践
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次後期～3 年次後期
講師名 （時間・所属）	1 年次 西村 弘子（ 5 時間・学院教員 看護師） 2 年次 西村 弘子（ 5 時間・学院教員 看護師） 3 年次 学院教員（35 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > 既習の知識・技術をもとに、臨床で遭遇する状況下での看護実践を段階的に学ぶ。 < 科目目標 > ・ 1 年次 日常生活援助を受ける患者の思いに気づき、心理的負担に配慮した援助方法について考える。 ・ 2 年次 既習の知識・技術を統合し、体験を通して能動的に学ぶことで臨床判断能力を高める。 ・ 3 年次 複数の患者に対し、時間管理をしながら優先順位を判断し、多重課題に対する実践力を身につける。 < 授業内容 > 1 臨床判断について 2 状況設定事例演習 1) 対象の状況に応じた日常生活援助の実施 2) 患者の病態生理に基づいた看護技術の実施 3) 多重課題演習 複数の患者に対する看護の実践 < 授業の進め方 > 講義、演習 < 受講要件 > なし < テキスト > なし < 参考文献 > なし < 評価方法 > 3 年次 技術試験、レポート			

分野	専門分野	教育内容	基礎看護学実習
単位（時間）	3 単位（135 時間）	実習時期	1 年次前期～後期
授業科目 （時間）	1 療養見学実習（10 時間） 2 生活援助基礎実習（35 時間） 3 看護過程基礎実習（90 時間）		
< 科目設定理由 > 対象の生活の場である病室の環境整備ができ、日常生活援助及び看護過程の展開を学ぶ。 < 実習目的 > 病室の環境整備ができる。 基礎的知識及び技術を踏まえ、対象の状態に応じた日常生活援助を体験する。 受持患者に対し、看護過程を使って看護の展開を体験する。 < 実習内容 > 1. 療養見学実習 対象を取り巻く環境と看護活動の実際を知る。 2. 生活援助基礎実習 対象の日常生活援助を通して、よりよい人間関係構築から対象理解に繋げる。 3. 看護過程基礎実習 看護過程のプロセスから、対象の状態や反応を捉え、統合された生活者と理解し、看護ケアを実践することで基礎的な看護の実践能力を身につける。			
< 受講要件 > 1. 療養見学実習： ・環境調整技術を受講していること ・ベッドメイキングの看護技術試験に合格していること 2. 生活援助基礎実習： ・医療コミュニケーションの講義を受講していること ・身体の清潔、フィジカルアセスメントの看護技術試験に合格していること 3. 看護過程基礎実習： ・生活援助基礎実習を履修していること			
< 評価方法 > ・看護過程基礎実習での評価 ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の平均			

分野（領域）	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	実習時期	3 年次 前期
授業科目 （時間）	地域支援実習（25 時間） 地域保健実習（25 時間） 在宅看護実習（40 時間）		
<科目設定理由> 地域で暮らす人々のQ O Lを維持・向上するための援助を学ぶ。 <実習目的> 様々なライフステージや健康レベルにある地域で生活する個人、集団を対象とした看護活動の実際を学ぶ。地域に暮らす人々の健康を保持・増進し、QOL を向上させるための保健師の活動や、保健医療福祉の連携のあり方が理解できる。 <各実習目的> 1． 地域支援実習（保健所） 地域住民の身体や精神の健康を守るために、広域的・専門的に支える保健所の役割を理解する。 衛生環境を公衆衛生的に支援する保健所の役割を理解し、地域の保健医療をマネジメントする意義に気づき、その中での地域看護活動を考える力を養う。 2． 地域保健実習（市町村） 地域住民の生活と地域の特性を踏まえ、地域のヘルスニーズに対応するための地域看護活動の実際を理解する。 3． 在宅看護実習（訪問看護ステーション） 地域で暮らす療養者と家族の生活状況を総合的に捉え、必要なニーズと援助のあり方について学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と、療養者と家族を支える多機関および多職種との連携と協働について学ぶ。			
<受講要件> ・ 公衆衛生の講義を受講しておくこと。 ・ 地域・在宅看護総論、地域・在宅療養を支える看護Ⅰを履修しておくこと。 ・ 地域・在宅療養を支える看護Ⅱを受講しておくこと。			
<評価方法> 在宅看護実習で実習評価表に基づいて臨地実習指導者の評価と出席点の合計。			

分野（領域）	専門分野	教育内容	成人看護学実習
単位（時間）	6 単位（270 時間）	実習時期	2・3 年次 前期～後期
授業科目 （時間）	成人看護総論実習（60 時間） 周術期看護実習（60 時間） 急性期看護実習（60 時間） 人生の最終段階看護実習（30 時間） 慢性期看護実習（45 時間） 自己管理看護実習（15 時間） ※学内実習（オリエンテーション・振り返り等）含む		
< 科目設定理由 > 成人期の特徴を捉えた看護活動を体験し、ライフサイクルに共通した健康障害の経過に応じた看護過程の展開を学ぶ。 < 実習目的 > 成人期における健康上の変化によって身体的、心理的、社会的側面に及ぼす影響を理解し、各期で求められる看護の役割を理解する。 < 各実習目的 > 1. 成人看護総論実習 回復期・慢性期にある対象と家族の特徴を理解し、対象の健康レベルに応じた看護を実践する基礎的能力を養う。 2. 周術期看護実習 周術期にある受け持ち患者を理解し、心身の危機的状況から生活機能の回復、社会復帰に至るまでの対象の回復過程を捉え、生活行動拡大のために必要な看護技術を状況に応じて実施する基礎的能力を養う。あわせて、周術期看護における医療チームの連携を学び、看護師としての自己の役割を考える。 3. 急性期看護実習 急性期の患者とその家族の特徴を理解し、生命維持、健康回復、精神的側面への看護を理解する。 4. 人生の最終段階実習 人生の最終段階にある人とその家族を理解し、心身の安楽に向けての援助を学ぶ中で自己の死生観を養う。 5. 慢性期看護実習 〔外来〕 慢性疾患を抱えながら、生活している対象への継続支援について理解する。 〔入退院支援センター〕 地域の人々が治療や療養を安心して過ごせる継続支援について理解できる。			

〔地域医療連携センター〕

入院中の患者・家族が、安心して住み慣れた家や施設等で療養生活が送れるようにするためにどのような支援が行われているのか理解することができる。

〔がん化学療法〕

地域で生活しながらがん化学療法を受ける対象を理解し、QOL を維持するための援助を学ぶ。

〔認定看護師〕

複雑な健康問題を抱える患者や家族に対し、専門知識と実践力をもった認定看護師の関わりの実際を学ぶ。また、認定看護師の役割とチームアプローチの方法を学ぶ。

6. 自己管理看護実習

腎代替療法を受けている患者への自己管理を促進する看護について理解する。

< 受講要件 >

- ・ 基礎看護学実習の単位を取得していること。
- ・ 成人看護学総論を受講していること。

< 評価方法 >

- ・ 成人看護総論実習及び周術期看護実習で評価。
- ・ 実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の合計

分野（領域）	専門分野	教育内容	老年看護学実習
単位（時間）	4 単位（180 時間）	実習時期	1 年次 前期 2～3 年次 前期 ～後期
授業科目 （時間）	老年看護基礎実習（8 時間） 高齢者生活支援実習（52 時間） 老年看護実習（120 時間） ※学内実習（オリエンテーション・振り返り等）含む		
< 科目設定理由 > 高齢社会を迎え老化や様々な疾患による身体機能の低下、障害を持つ高齢者が増えている。そのような中、人生の最終段階にある対象への生きてきた過去を含めた尊厳をもった援助を目指す。 < 実習目的 > 現代社会を生きる高齢者の看護を通し、老いを生きることを支える看護と高齢社会を支える地域社会の役割を担う力を身に付ける。 < 各実習目的 > 1 老年看護基礎実習（1 年次） 自立し主体的に生活している高齢者のくらしを理解し、生活者としての看護の対象理解への第一歩を踏み出すことができる。 2 高齢者生活支援実習（2 年次） 加齢に伴う変化や健康問題を抱えながら生活する高齢者の特徴を知り、その特徴に応じた生活支援の実践を学ぶ。また、高齢者施設の機能と保健・医療・福祉の連携、その看護の役割を学ぶ。 3 老年看護実習（2～3 年次） 老年期にある対象が治療を受けている過程で必要な看護の知識と技術を習得し、自己の老年観を養うことができる。			
< 受講要件 > 老年看護基礎実習：なし 高齢者生活支援実習：老年看護学総論を受講していること。 老年看護実習：老年看護学総論を履修していること。			
< 評価方法 > ・ 2～3 年次の老年看護実習での 2 か所の評価点を平均した点数。 ・ 実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の合計。			

分野（領域）	専門分野	教育内容	小児看護学実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	実習時期	1 年次 後期 2～3 年次
授業科目 （時間）	小児看護基礎実習（32 時間） 小児看護実習（58 時間） ※学内実習（オリエンテーション・振り返り等）含む		
< 科目設定理由 > 多様な生活の場において障害の有無にかかわらず、どのような健康レベルであっても、子どもとその家族に寄り添い、成長発達段階に応じ個別の健康上のニーズに対する看護を実践する。 < 実習目的 > 個々の子どもとその家族及び子どもを取り巻くさまざまな人々を含めて、その特性と相互の影響についての理解を深めたうえで、子どもの健康に関わる専門的知識・技術・専門職業人としての態度を認識でき、子どもとその家族にとって必要な援助を認識し、実践するための基礎的能力を養うことができる。 < 各実習目的 > 1. 小児看護基礎実習（1 年次） 保育園で生活している子どもの観察と関わりを通して、成長発達過程にある健康な子供を理解する。 2. 小児看護実習（2～3 年次） 子どもと家族の健康上のニーズを把握し、小児看護の基本となる知識・技術を用いて看護実践を行い、子どもと家族の最善の利益を保障する看護を学ぶ。			
< 受講要件 > 1. 小児看護基礎実習：小児看護学総論の講義を受講していること。 2. 小児看護実習：小児看護学総論の講義を履修していること。 小児の病態論を受講していること 疾患をもつ小児の看護を受講していること。			
< 評価方法 > ・小児看護実習において実習評価を行う。 ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の合計			

分野（領域）	専門分野	教育内容	母性看護学実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	実習時期	2 年次後期～3 年次前期
授業科目 （時間）	母性看護実習（90 時間） ※学内実習（オリエンテーション・振り返り等）含む		
< 科目設定理由 > 生命や性を慈しみ、次世代の誕生を育むとともに、妊娠・分娩・産褥および新生児に対する看護を理解することを目指す。 < 実習目的 > 周産期にある対象とその家族の看護を理解する。生命を慈しむ心を育み、次世代の健全な育成を目指した看護を学ぶ。 < 受講要件 > ・母性看護学総論を受講していること ・周産期病態論を受講していること ・周産期看護を受講していること。 ・新生児への援助技術試験に合格していること。 < 評価方法 > ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の合計			

分野	専門分野	教育内容	精神看護学実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	開講時期	3 年次前期
授業科目 （時間）	精神看護実習（90 時間）：精神科病棟		
< 科目設定理由 > 国は精神保健福祉対策として、精神科病院を中心とした入院治療から地域ケアへと方針を打ち出している。また、現代の複雑な人間関係により、精神疾患は身近な疾患になってきている。そのため、精神障害をもつ対象の特徴を理解し、地域で生活する対象への援助を学ぶことを目指す。 < 実習目的 > 対象が持つ精神疾患からくる生きにくさを理解し、社会復帰に向けて対象が望む必要な関わりを考える。また精神疾患を持つ患者との関わりにおいて、治療場面での患者－看護師関係の持ち方、治療的関わりを形成するための対人関係の基礎的技術を体感する。			
< 受講要件 > ・精神看護学の講義を受講していること。			
< 評価方法 > ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者評価と教員評価の合計。			

分野	専門分野	教育内容	看護の統合と実践実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	実習時期	3 年次 後期
授業科目(時間)	看護の統合と実践実習（90 時間）		
< 科目設定理由 > 各領域で学んだ看護を統合させ、より実践に近い状況で臨床判断を行い、看護の実践力を高める。 < 実習目的 > 看護学実習の最終段階として知識・技術・態度を統合し、チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップや看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。 < 実習内容 > 1) 看護管理実習 2) リーダー業務実習 3) シャドウイング実習 4) 複数患者受持実習 5) 夜間実習			
< 受講要件 > ・ 領域別実習を 2/3 以上履修していること。			
< 評価方法 > ・ 実習評価表に基づいた臨地実習指導者評価と学院教員評価の合計 ・ 実習内容 1) ～5) については、それぞれ規定の（2/3 以上）出席を必要とする。 （評価要件）			